

## 研究発表会、ご協力ありがとうございました

副校長 細井 宏一

1月26日（土）に、平成30年度研究発表会を開催いたしました。冷たい風がふく寒い一日でしたが、全国から約500名の参観者を、全国からお迎えして発表することができました。

発表会の運営面では、保護者の方のご尽力をいただきました。PTA 会長をはじめ、PTA 運営委員会の皆様、常置委員会の皆様には、寒い日であったにも関わらず、学校内・外での案内、受付、クローク、接待、記録写真等、細かいところまでご配慮をいただきました。皆様のお心配りに、深く感謝申し上げます。

今年は文部科学省研究開発学校指定の2年目となりますが、授業実践を増やしながら単元開発や理論作りをしています。発表会当日の午前中は、上田教諭（研究推進委員長）が体育館で、研究概要についてプレゼンテーションしました。そして次に、午前から午後にかけて、探究科の授業と各教科の授業を行い協議会をもちました。授業は全部で18本を公開しました。授業後の協議会では活発な議論が展開されました。参加してくださった教育関係者の方からは、授業提案についての様々なご意見や感想、そして課題点もご指摘頂きました。本校の教職員にとりましてまたいへん学びの多い一日となりました。

そして、参観者の方からは、学習に取り組む子どもたちの姿がとてもすばらしかったと、お褒めの言葉をいくつもいただきました。

探究科では、探究していくテーマについて、仲間と協働しながら追究したり、個人的に調べ学習をしたりしながら、自分なりの考えをまとめ、伝えていきます。そして、仲間の違った考えをよく聞いて、自分との違いや共通点を考え、多様性に触れて、本質的なことを見つめようとしていきます。このような、解のない問いに対して、自分なりの納得解を見いだしたり、他の人の考えに触れて自分のもっている概念をより豊かにしていく学びは、グローバル化、少子高齢化、AIなどの科学技術の進展により、多様な考え方が存在し、将来の社会像が予想できないような時代になっていくとき、必要な資質・能力なのではないかと考えています。

研究開発学校事業の目的は、現在の学習指導要領では行っていない新しい取り組みをして、次期学習指導要領の改訂に資するような資料・情報・実践事例を得るようにすることです。特に本校の取り組みは、国際バカロレアのPYPを参考にして、学習指導要領といつところどりをしようという取り組みですが、国公立学校で、PYPの研究を学校全体で取り組んでいるところは、私の知っている限りではありません。そのような意味でも全国から注目されていますし、今後、より注目度が高まるのではないかと期待しています。このような先導的な研究に取り組むことこそ、附属学校の拠点校としての大きな役割・存在意義であります。来年度、この探究科をどのように取り組んで行くかは、保護者会等でご説明をさせていただきますが、保護者の皆様のご理解とご協力を、今後とも宜しくお願いいたします。